

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年3月発行 No. 358

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: horbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その1

《令和5年2月19日、30周年記念全国お手玉遊び大会でシンポジウム「未来のお手玉」が行われました。そのパネリストの宮中雲子、山本清洋、尾崎杏子の三氏に、シンポの『余話』を綴ってもらいました。それを何回かに分けて紹介します。》

世界に誇り得るお手玉文化を残す（宮中雲子）

「日本のお手玉の会」が発足したのは、平成4年9月19日。新居浜市のテレコムプラザで、「いま、なぜ!!お手玉遊びなの?」というテーマでシンポジウムが行われました。パネリストは、伊藤バーバラ(英会話教室経営者)、大賀弘章(日本郷土玩具館館長)、大塚珠代(大道芸人)、松友武昭(愛媛新聞社文化部長)、宮中雲子(詩人)の5名で、コーディネーターは武田信之(新居浜アメニティ倶楽部)でした。日本の文化所産であるお手玉遊びを、このまま廃れさせてなるものかという強い要望により、この席で新居浜市に本



部を置く「日本のお手玉の会」が設立されました。

新居浜にはお手玉を愛する人がいた

お手玉に関する人々の関心は、このようなテーマでシンポジウムを企画させるほど薄れていたのです。京都大学の教授で、日本のお手玉の会の顧問でもあった藤本浩之輔氏は、すでに20年ほど、お手玉について研究をしていらしたのですが、藤本氏の文章をお借りしますと、「袋お手玉が出来て、子どもたちのお手玉の技は世界一となり、豊かなお手玉文化が形成された。しかし、このお手玉の凋落ぶりは著しく、このままでは、お手玉文化は日本から消えてしまいそんな気配である」と書かれています。

「日本のお手玉の会」の発足は、新居浜にお手玉を愛する人たちがいて、すでに新居浜アメニティ倶楽部を作り、お手玉遊びをしていました。ここから、「日本のお手玉の会」へと発展。全国組織へ広げようという運びになったのです。

シンポジウムの翌日、山根体育館で「第1回全国お手玉遊び大会」が開催され、635人の選手、観客など観衆は3000人が訪れて、大会は大成功でした。会場の入り口には1000個のお手玉が積み上げられ、小山を作っていました。けれど、大会が終わって片付けようとする、1000個のお手玉はすっかりなくなっていました。みんなお手玉を愛する人たちによって、持ち帰られていたのです。この1000個のお手玉とお手玉遊びの話題は、新居浜からさらに全国へ飛んで行って、人々にお手玉を思い起こさせることとなったのです。(日本のお手玉の会会長・詩人・日本童謡協会理事)